

会長時評

2月10日の選挙に一言 失速感の払拭に努力を

三宅村長選挙開票結果

立候補者名	得票数	得票数合計	1,512
当 平野祐康	1,432	無効投票・不足票	113
栞原 稔	80		

当日有権者数	投票者数	投票率 (%)	前回投票率 (%)
男 1,389	860	61.92	80.56
女 1,188	765	64.39	78.98
合計 2,577	1,625	63.06	79.75

地域別投票者・投票率

地域名	有権者数	棄権者数	棄権率
神着	578	250	43.25
伊豆	302	108	35.76
伊ヶ谷	166	70	42.17
阿古	915	390	42.62
坪田	616	292	47.40
合計	2,577	952	36.94

今後の島の再生に道筋を示す三宅村村長、村会議の選挙が2月10日に行われた。しかし、村議選は無投票、村長選の投票率も低く、このままでは失速感が漂ってしまうことが心配される。

村議選は無投票で
三宅村の村長、村議選は、2月10日に行われた。今回の選挙は、帰島3年目を迎え今後の復興・再生をどのよう



発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

三宅村長・村議選の当選者

(村長)		
平野祐康	59	無現
(村議)		
浅沼和	66	元会社員 無新
平川大作	52	大工 共新
寺沢晴男	70	元村長 無現
高松啓展	70	元都支庁職員 無現
福沢信哉	72	農業 無現
長谷川崇	64	党支部長 公新
佐久間達巳	45	自営業 無現
谷 寿文	44	運送会社員 無現
平野辰昇	68	飲食業 無現
浅沼徳広	70	漁協専務理事 無現

(無投票当選、定数10、届け出順)

に展望するか大切な節目となる選挙であった。しかし村長選は実施されたが、村議選は無投票であった。前回の選挙では、村長立候補3人、村議は10人定数に14人が立候補した。避難中にもかかわらず、投票率は約80%の高率であった。これには私たち島民連絡会の要請により青年会議所の主催で討論会が行われるなどの努力もあった。

深刻な対話の不足
このままでは、今後4年間各村議は何を旨とするか、島民のために何をやるか、わからず村政不信は増幅してしまふ。村長選でも平野氏の対立候補は前回42票が約倍の80票だ。投票率も69ポイントも低下した。結果は、人材不足と意欲が不足している島の反映だと見る声も聞かれる。これでは、島は失速感

が漂ってしまふ。島の経済も生活もまず人が活性化し元気がなくては発展しない。現状は島民の意見や要望を懇談会等で発言しても村の答えは「金が無い」「国の制度だ」と切り捨てる。一緒に考えようとは言わない。高濃度地区、人口、福祉や健康対策なども対話が無く失望する。

まず公約文の配布を
議会も「議会だより」だけでなく、何をやったか島民と対話する議会報告会を開くなど最低の努力がほしい。まずは各議員が4年間何をやるか公約文を配布することをお願いしたい。

平野村長と各村議のこの努力に期待をする。
(佐藤就之)

事務局便り

○第4回協力者会議開催
日時：3月8日(土) 18時から20時まで。
会場：喫茶室ルノアール 巣鴨店会議室(巣鴨駅から徒歩2分)にて。
今年度の活動報告、来年度の活動等について協議し合いたいと思います。在京島民の方々のご参加もお待ちしております!

○ご寄付のお願い
多数の方々より、ご寄付や温かい励ましのお手紙をいただきありがとうございます! これからも宜しくお願い致します。

郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク
事務局：あすなろ保育園内
電話・FAX 03(3963)5697

シンポジウムで意見交換

パネル・ディスカッションや見学会を実施



高校上の砂防ダムの視察をする参加者(19日)

2月19、20日、村会議員や島民などをまじえて、三宅勤労福祉会館で「三宅島 砂防治山と植生を考える現地シンポジウム」が開かれた。(三宅島人材受け入れ連携協議会・千川剛史会長) シンポジウムでは、パネル・ディスカッションや現地見学を通し、今後の再生・復興などの検討が行われた。

テーマは砂防ダムと治山ダムの役割と植生の復活方法を現場で勉強し発信することや、山林経営と農業の生活再生と新たなビジネスモデル構築のためのネットワークづくり。1日目は2回に分けてそれぞれの議題でパネル・ディスカッションを行い、2日目は現地見学を行った。

パネル・ディスカッションの1回目は、昨秋上陸した台風9号、10号の影響や、00年の噴火以

降の砂防と治山対策などについて話し合われた。また2回目は、森林組合とNPOによる緑化活動や三宅島の農業の再生の現状と課題、住民参加の緑化デザインづくりと協同事業参加の提案などについての報告、および島民との議論が行われた。

及川先生 3回目の健康講座 今回で島を一巡

埼玉県立大学講師の及川裕子先生の健康講座の3回目



及川先生の健康相談

3回目が1月21日に開かれた。午前中は保健所主催の育児相談が旧阿古保育所で行われ、午後2時から神着老人クラブが神着

老人福祉会館で、午後6時から三宅島漁業協同組合会議室で、連続開催された。これまで、ふるさとネットの協力により全島を一巡することができた。

今回は、講師に及川裕子先生のほかに工藤里香先生もお招きして、「食生活を見直そう」というテーマで話が行われた。参加者は自分の食生活をバランス・チェックシートに当てはめて、栄養バランスを点検して改善点などについて楽しく話した。

三宅の英傑を偲ぶ 故浅沼委員長追悼集会

首相、土井たか子氏などが挨拶。

土井氏は「今年の命日は特に、じっとしていられない。平和憲法を生かす努力をする。憲法改悪を断じて許してはならない」と力説。佐藤就之会長も集会賛同者として挨拶を求められたが上京できず残念ながら応じられなかった。

わが三宅島が誇る昭和の英傑・故浅沼稲次郎社会党委員長が右翼少年に刺殺されてから47年目を迎えた。昨年10月12日、憲政記念館で「故浅沼稲次郎委員長追悼集会」が開かれた。集会には、約400人が出席し村山元



三宅島観光協会事務局長 横山知己さん

「観光の復興目標に」

2月1日に三宅島観光協会の事務局長に就任した横山知己さんは、「観光の復興を目標に、島の人と共に生きたい」という決意を語った。



海・島・人を球形で表現した三宅島観光復興モニュメント（錆が浜）

三宅島の皆様こんにちは！昨年の全国公募で晴れて御選考いただき、2月1日より「三宅島観光

協会」事務局長に就任しました横山と申します。わからない事ばかりです。これから三宅村の方々には、何かとお世話になると思いますが宜しくお願い致します。

◆ 私のこと、事務局長応募の動機や、就任にあたっての抱負などを少しお話しさせて頂きます。私は、雪深い東北・秋田に生まれ、東京の学校卒業後は、神奈川県（鎌倉・茅ヶ崎）で25年間暮らしました。やはり海の近くで、夏の観光客が多く、伝統的な祭りの多い土地でした。15年間、スポーツクラブに勤め、主に水泳コーチで、オリンピック代表を育てることが夢でしたが、それは叶わず、それでもたくさん

1959年生まれ、神奈川県茅ヶ崎市出身。水泳コーチ歴15年、県の強化コーチや国体代表コーチなども務め、文部科学省認定の水泳教師と競泳コーチの資格を持つ。

その後スポーツビジネスの会社にてイベントや企画旅行、国内外にて子供たちの交流キャンプなどを手掛け、事務局長就任前の1年間はNPO法人・神奈川ライフセービング連盟の職員として、アメリカ大使館プールのライフガードや子供たちに水泳を教えた。独身

の全国大会優勝者や、ジュニアの国際大会日本代表選手は多く育成し、国体コーチや県の強化しました。

◆ その後13年間は、コーチではなく、スポーツを幅広く仕事にした会社に転職し、スポーツマネージャーやイベント、海を守るライフセービング事業、子どもたちを対象にした「自然野外教室」や「海外のスポーツキャンプ交流」などに携わりました。

◆ コーチ時代も含めて、勉強や研修で、何度もアメリカのアリゾナというところやオーストラリアに行きましたが、特にオーストラリアでの自然と共存するための国民の考え方や、自分たちの町の海や自然を大切にすることを子供たちの教育、行動は、目を見張るものがありました。

◆ 仕事では、たくさん挫折も味わいましたが、これまでのスポーツの仕事に取り組んだ「経験」や、イベント、キャンプ、海外での多くの「体験」を何か仕事に生かすことができた。そんな時に「三宅島観光協会事務

局長公募」を知り、応募しました。

◆ 紺碧の海、満点の星空、人との距離が近い島や海の生き物たち、そして火山が生んだ大自然の驚異。1月末に単身（もともと一人）で転居してから、島で見るものすべてが新鮮で、これから島のために頑張っていくという気持ちでいっぱいです。

◆ 反面、今なお避難生活を余儀なくされている方々や、立ち入ることの出来ない地域、廃墟となった集落など、「噴火の爪痕」を見る度に、言葉が失ってしまいます。が、私は、これから三宅のすべての人たちと共に生き、共に涙し、共に笑い、喜びも悲しみも苦しみも分けあって島で生きて行く覚悟で来ました。◆ 尊敬するジャックモイヤー先生のように、観光事業を通し、島の発展と観光復興を目標に1日1日大切に生きていきたいと思えます。どうぞ宜しくお願い致します。

全島避

難解除から3年がたつたが、在京島民の訪問活動をしているふるさとネットのメンバーのもとには、まだ「島に帰りたい」という言葉が届く。ふるさとネットは2月16日に新年会を開き、今後とも協力して、このような人たちの支援をすることを確認した。

ふるさとネットの訪問活動

伝わってくる望郷の思い

全島避難解除から丸3年を迎え、最近帰島されたという在京島民の方もいる反面、病気や高齢のため亡くなられたという知らせも届いている。そして、健康面や島の住居の問題などで帰りたくて



訪問活動を担当するふるさとネットのメンバー（新年会で撮影）

も帰れない方々もまだ大勢残っている。夫婦または1人暮らしで高齢の世帯が多く、病院に通っていたり中には入院している方もいる。ふるさとネットでは都営住宅を中心に訪問活動

【お便り】（要約）

避難生活も長期にわたり、避難中はありがたいお励みやご助力など常々何かとお心にかけていただき厚くお礼と感謝申し上げます。さて、この度三宅島へ帰島することとなり、感慨無量の感がございます。今後ともよろしくお願い致します。（坪田 Y様）

ガス止まず、帰島未だ足踏み状態の私達です。故郷への想いは日々忘れず、一日も早くと念じております。（阿古 M様）

【ご寄付者名】

（10月16日～2月13日）
光安千久子様、高橋栄一様、佐藤宗ノ子様、Y様、井上尚様、須藤幹雄様、宮嶋大綱様、I様、酒井一豊様、大坊千代子様、伊藤奈穂子様、巢鴨地蔵そば「大橋屋」様、櫻田薫様、飯田雅子様、井上教子様、山下文子様、青谷知己様

を続けており、1月11日に北区の桐ヶ丘団地を訪問した。その中で、「長い間島に帰れず、島の家や修繕や周りの草木の除去など金銭的にも苦しくなかなかなかできない」、「残っている人がどうしているのか、島のガスの状況などが気になり、ネットから届く新報やお便りが嬉しい」、「ガスが止まればすぐにでも帰りたいたい」、「飛行機が4月に再開したら1度島に帰ってみたい」など様々な声を聞いた。



新年会で行われた協力者への花束贈呈

新年会 2月16日に開催

今後の結束を確認

2月16日、青物横丁の「ピストロおきみくら」で、ふるさとネットの新年会が開かれた。18時半には、佐藤会長の挨拶に続いて、文化

放送防災キャスターの高橋民夫さん（写真左端）の音頭で乾杯。その後、挨拶に立った協力者の千川剛史大妻女子大学教授と、向上高校の山田貴久教諭に、会長から花束が贈られた。

さらに協力者によるダンスなども披露され、参加者は楽しい時間を過ごした。最後の伊藤奈穂子事務局長による挨拶では、島へ帰ることなく亡くなった方を思っ涙を流す場面も見られた。

編集後記

今年も、ふるさとネットの新年会に参加させていただきました。事務局長の伊藤さんの涙に、ネットのメンバーと島民の方の繋がりや強さを感じました。私たちも人と人を繋ぐお手伝いをしていきたいと思えます。（DTPA一同）